

散策マップ

〈国指定史跡〉 史跡 勝坂遺跡公園

縄文時代中期（約5,000年前）の大集落跡です。大正15（1926）年、大山柏（おおやまかしわ）氏によって発見された土器は、装飾的な文様や顔面把手（がんめんとして：顔を表現した取っ手）などによって注目を浴び、後に「勝坂式土器」として縄文時代中期のめやすとされました。

また、同時に発見された多くの打製石斧（だせいせきふ）を、土を掘る道具と考えて原始農耕論が提唱されたことは、我が国の考古学史上、極めて重要です。

遺跡を保存活用するために史跡公園として整備しました。復元住居2棟と敷石住居のレプリカを展示しています。園内の植栽は縄文時代の雰囲気再現を考慮されています。



勝坂遺跡A区

平成18年に国に新たに追加指定された区域で、現在史跡として保存しています。大正15年の大山柏（おおやまかしわ）氏の調査地点であり、この付近が勝坂式土器の発見の地とされています。



国登録 有形文化財 （建造物） 「中村家 住宅主屋」

唯一現存する幕末期の和洋折衷住宅です。建築当初は3階建てでしたが、関東大震災後3階部分は取り除かれ2階建てとなっています。建築を手がけたのは鎌倉大工の石井甚五郎で、10年の歳月をかけ完成したと伝えられ、詳細な板



図が残されています。

建物の特徴は、1階が整形四間取りとし、西側に式台玄関を設け、外観は和風の要素でまとまっています。

2階は、外壁を海鼠壁（なまこかべ）とし、洋風の要素として軒を曲線の白漆喰で塗りこめ、正面に縦長の窓を配しています。

（注）海鼠壁：壁に四角い瓦を斜めにならべ、その継ぎ目をしっかりと盛り上げて白く塗ったもの。

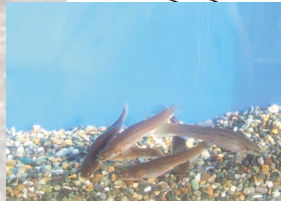
相模原市登録 天然記念物 「勝坂の ホトケドジョウ」

ホトケドジョウは、本州、四国東部に分布し、湧き水の流れるゆるやかな細流に生息する淡水魚です。

かつては市内で普通に見られる魚でしたが、環境の変化などにより生息地が減少し、今では国や県の選定する「絶滅のおそれのある種」となっています。

市内では数か所で生息が確認されていますが、勝坂の生息地は貴重な谷戸の景観が残されています。

（注）貴重な自然環境を守るため、水路や湿地を荒らさないよう気をつけましょう。



写真提供
神奈川県水産技術センター内水面試験場

相模原市登録 天然記念物 「勝坂の 照葉樹林」

シラカシを中心とする照葉樹が二次的に回復したもので、相模原台地の原植生（げんしょくせい）を現代に伝える貴重な天然記念物です。

周辺はクヌギ・イヌシデ等の雑木林の名残と、シラカシ群集、ケヤキ垂群集と考えられるケヤキの大木などが見られます。

低木層にはアオキ・ヒサカキ・タブノキ・シラカシ・ヤツデ・シロダモ等の照葉樹が見られます。

しょうようじゅりん



石楯尾神社

いわだておじんじや



創建は不詳。再建は寛永12（1635）年で大己貴命（おおなむちのみこと）を祭神としています。明治時代初期に改められるまでは「羽黒権現社」と称されていました。

勝源寺

しょうげんじ



「新編相模国風土記稿」（天保12（1841）年成立）よれば、竜鳳寺（厚木市）の末寺で山号を金澤山といい、千手観音を本尊としています。当寺には「六本庚申」と呼ばれる青面金剛像が安置され、明治から大正時代にかけては養蚕守護を願う参拝客でにぎわったといわれています。

有鹿神社

あるかじんじや



相模国の延喜式内十三社のひとつである有鹿神社（海老名市）の奥宮として祀られています。明治時代までは、祭礼の時に本宮から神輿で御神体が渡御し、4月8日から6月14日までの2か月あまり奥宮に留まる「水もらいの神事」を行っていました。

散策にあたっては、自らのゴミやペットの糞は必ず持ち帰りましょう。貴重な自然環境を損なわないようご注意ください。

凡例	
	「発見のこみち 勝坂」案内マップ
	発見のこみち 勝坂